

2025年 秋

竹久夢二美術館

企画展プレスリリース



2025
9.20 SAT
12.21 SUN



竹久夢二美術館
TAKEHISA YUMEJI MUSEUM



昭和100年記念

夢二の昭和

大正ロマンから昭和モダンへ

詩人画家・竹久夢二（1884-1934）は「夢二式美人」を描き表し、大正ロマンを象徴する存在として広く知られています。
大正時代（1912-1926）に活躍したイメージが強い夢二ですが、昭和初期に花開いたモダン文化において多彩な作品を残し、念願だった外遊も昭和6年（1931）に実現。49歳で昭和9年（1934）に生涯を終えるまで、独自の芸術を表現し続けました。
本展では昭和100年の今年、「夢二の昭和」をテーマに、外遊の成果やこの時期の知られざる一面を展示紹介します。

担当学芸員による
ギャラリートーク

2025年

10月11日 土

11月16日 日

12月13日 土

いずれも14時より

① 展覧会チラシ

詩人画家・竹久夢二（1884-1934）は「夢二式美人」を描き表し、大正ロマンを象徴する存在として広く知られています。

大正時代（1912-1926）に活躍したイメージが強い夢二ですが、昭和初期に花開いたモダン文化において多彩な作品を残し、念願だった外遊も昭和6年（1931）に実現。49歳で昭和9年（1934）に生涯を終えるまで、独自の芸術を表現し続けました。

本展では昭和100年の今年、「夢二の昭和」をテーマに、外遊の成果やこの時期の知られざる一面を展示紹介します。

竹久夢二美術館
TAKEHISA YUMEJI MUSEUM

展示コーナーと広報図版紹介

出品点数 約200点(予定)

広報図版をご使用希望の場合は、「画像使用申込書」に必要事項を記載の上、FAX またはメールで当館にお送りください。

◆都市の夢を描く

大正末から昭和初期に、暮らしの西洋化が進み、現代につながる消費社会が形作られ、大衆が主役の文化が台頭しました。夢二は、時代の変化を敏感に感じ取り、制作に反映しました。

「夢二式美人」と呼ばれる女性像を独自に表現した夢二は、都市の街角に表れた新しいタイプの女性・モダンガールも描きました。



②占 1927年

季節感のある夢二の表紙絵は、百貨店の広報誌を飾り、商品や店舗のイメージ発信に都会的で洗練された印象を添えました。



③『三越』九月号 秋の花 1928年

◆生活に広げた美

工芸界を中心に、手仕事の美を見直そうとする動きが大正から昭和にかけて多く起こりました。



④二瓶武爾宛書簡 1931年

夢二も昭和5年(1930)に群馬県の榛名湖畔に「榛名山美術研究所」の建設を宣言し、美と暮らしの融合を目指し、手工芸品を改良・普及しようと試みています。

◆昭和初期の肉筆作品を中心に

大正後期から昭和初期にかけての夢二の肉筆画には、当時傾倒していた中国の文人画や南画の影響が見られます。

また、自身の生き方を示した印「愁人山行」や新しい署名が使用されるなど、心境の変化が認められます。



⑦かなめ子 昭和初期

◆雑誌での試み

明治後期から雑誌を活躍の舞台とした夢二ですが、大正末から昭和にかけて、最先端のデザインや時代風俗を取り入れた表紙絵や口絵などを寄せています。

若い読者向けの文芸誌『令女界』や『若草』において、夢二画は大きな支持を得て、読者との交流の場も持たれました。



⑤『若草』新春号 表紙原画 1930年

◆乙女心に寄せて

昭和初期の少女雑誌では、挿絵画家による少女のための詩とイラスト(抒情詩、抒情画)が掲載され人気を博しました。

読者は繊細な心情を捉えた描写に共感し、少女達の夢や希望を表した作品に憧れを抱きました。

夢二の描くセンチメンタルな雰囲気な乙女は、夢二式美人ならではの特徴を有し、加えておしゃれなファッションには夢二のセンスが光ります。



⑥緑玉の指輪 1926年

みどころ

1 レトロ&新しい!

百年前の知られざる夢二の姿を紹介

文化の変遷期である大正末から昭和にかけて制作された夢二作品には、多くの魅力が詰まっています。時代背景を交えた解説と一緒に楽しみください。

2 新境地を拓いた外遊に注目し、 熟達した画業を一挙公開

希少な油彩画やスケッチなど、当館所蔵の豊富な資料から外遊を詳しく紹介。

◆夢見た外遊へ

夢二はアメリカ・ヨーロッパへの2年4か月に及ぶ外遊を、昭和6～8年(1931～33)に実現しました。

アメリカでは不況や体調不良に悩まされましたが、在米日本人や移民に助けられながら活動しました。

ヨーロッパでは現地の文化に触れ、精力的に作品制作を行いました。とりわけドイツでは日本画を教授する経験も得て、創作も熟達しました。



⑧スケッチ 「プラーグ」 1932年



⑨水竹居 1933年

◆入院と晩年

体調を崩して外遊から帰国した夢二は、昭和9年(1934)1月に長野県の富士見高原療養所へ入院しました。

病床でも雑誌や装幀の仕事を残しましたが、同年9月に結核で49歳の生涯を閉じました。



⑩『子供之友』六月号 表紙 1934年

昭和の夢二 略年譜

昭和元年(1926) 夢二42歳
2年(1927) 『都新聞』に自伝絵画小説「出帆」を連載。
3年(1928) 6月下旬、黒部峡谷を旅行。
4年(1929) 3月、伊香保へ旅行。
5年(1930) 「榛名山美術研究所建設につき」宣言文を発表。

6年(1931) 5月、米国カリフォルニアへ。
7年(1932) 10月、ハンブルグ着。欧州各地を巡る。
8年(1933) 9月、日本に帰国。
9年(1934) 1月、肺結核で富士見高原療養所へ入院。
9月1日、死去(49才11ヶ月)。



展覧会概要

担当学芸員による
ギャラリートーク開催



10/11(土)

11/16(日)

12/13(土)

いずれも午後2時より

展覧会名称

昭和100年記念 夢二の昭和
—大正ロマンから昭和モダンへ—

主催及び会場

竹久夢二美術館

住所

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

Tel

03-5689-0462

会期

2025(令和7)年9月20日(土)~12月21日(日)

休館日

月曜日(ただし10月13日、11月3日、11月24日
開館)10月14日、11月4日、11月25日(火)休館。

開館時間

午前10時~午後5時
(入館は4時半までをお願いします)

入館料

一般 1200円 大・高生 1000円
中・小生 500円

※弥生美術館と二館併せてご覧頂けます。

交通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩7分
JR上野駅 公園口より徒歩20分



ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

美術館併設 夢二カフェ 港や

展覧会限定メニュー

夢みる乙女のハットケーキ

大正末にデパートの食堂メニューとして登場し、昭和初期に広まったハットケーキ(ハットケーキ)をアレンジ。



ベリーの自家製ジャムとクリームをサンドしたケーキに、夢二の花のカットを添え、宝石のようなチェリーを飾りました。

コーヒーもしくは
紅茶のセット

単品

¥1000

¥650

(税込)

竹久夢二美術館

平成2年(1990)開館。都内で夢二作品を鑑賞できる唯一の美術館です。館が建つ東京・本郷は、夢二が滞在した〈菊富士ホテル〉がかつてあり、また最愛の女性、笠井彦乃と逢瀬を重ねた場所、今なお昔の風情を留めて静けさと木々の緑に包まれています。

当館では約3300点の所蔵作品より、年3~4回様々なテーマで企画展示を実施しています。



竹久夢二

明治17年-昭和9年
(1884-1934)

岡山県出身の画家・詩人。雑誌投稿から明治38年(1905)末にデビューし、コマ絵や挿絵を数多く描き、センチメンタルな夢二式美人画を生み出した。画壇に属さず、日本画・水彩・木版画等で日本の郷愁と西欧のモダニズムを自在に表現した。また、詩や童謡も創作し、グラフィック・デザイナーの先駆けとしても活躍した。



展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 徳重美佳 までお願いいたします。

tel 03-5689-0462

fax 03-3812-0699

FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 徳重 行

昭和 100 年記念 夢二の昭和



—大正ロマンから昭和モダンへ—

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールで画像データをお送りいたします。
ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 までお送りください。また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 徳重宛